

(仮称)

自然ふれあいの森

ニュースレター 第06号

平成15年9月30日発行 発行:堺自然ふれあいの森委員会

堺自然ふれあいの森委員会報告

第14回/平成15年5月31日(土)
第15回/平成15年6月28日(土)
第16回/平成15年7月26日(土)
第17回/平成15年8月30日(土)
第18回/平成15年9月27日(土)

昨年の3月からはじまった「(仮称)自然ふれあいの森管理運営準備委員会」は、平成14年度の集大成としてのイベント「シンポジウム さとやまと“友達”になろう!」(詳しくは中面をご覧ください)を開催し、平成15年度の第1回目として5月に開催された委員会で14回目を迎えました。今年度新メンバーを加えた43名の市民委員と、学識経験者、専門家、行政からなる当委員会は、新メンバーとのコンセンサスを図るために、平成14年度の活動報告からはじまりました。また、平成15年度からの委員会の進め方は、企画班、開拓班、調査班の3つの部会を発足させ、各々の部会ごとに活動をすすめながら、月に一度開催される全体会議で、その成果の報告および提案事項、検討事項を決定していく形になりました。6月に行われた委員会では、会の名称が「堺自然ふれあいの森委員会」



に決定し、今年度からは、委員会のルール決めやボランティア保険の加入、年会費の徴収を行い、委員会の充実を図るとともに、運営スタイルの確立を目指すこととなりました。7月の委員会では、今年度予定の「<麦尾橋-龍ガ坂橋のアプローチ整備>と「<森の館の基礎工事>」についての概要を行政サイドから説明を受けました。また、企画班からの提案で、4月の



イベントにパネラーとして参加してくださった「八日市河辺いきものの森」への交流視察の提案があり、後の全体会議で10月28日(火)に視察に行くこととなりました。(この様子は次号のニュースレターで紹介します)5~8月の委員会では、午前中の全体会議の後、有志による森の手入れ作業を続け、徐々に森の整備が進んでいます。9月の委員会では、メンバー全員が観察グループと管理作業グループに分かれ、法道寺川沿いの観察とアラカシ広場下の放棄田跡の整備を行い、いい汗をかき、昼食のあと、心地よい風が吹く中、全体会議を行い活発な意見交換ができました。

(仮称)自然ふれあいの森に関する検討経過

(平成15年6月28日の資料)

- 平成3~4年 事業用地を取得
(公園墓地拡張用地 約17.2ha)
- ↓
- 12年 自然環境保全へと方針変更
- 13年05月 (仮称)自然ふれあいの森基本計画設計に着手
 - 公募型プロポーザルにより「森の学校」を採択(11事業基)
 - 森と人の新しい関わりによって自然環境を保全していく活動プログラムの導入
 - 市民、専門家、大学、行政が一体となって運営管理の組織形成を目指す
- 13年06月 (仮称)自然ふれあいの森管理運営に関する検討会を設置(構成:市民委員、学識経験者、専門家、行政)
 - 検討内容
 - 市民活動により実現される森を目指す
 - 整備方針の明確化
 - 利用と活動の可能性を検討
 - 管理運営体制の方向性を検討
 - 検討結果を施設設備や管理運営計画に反映させる
- 13年10月 検討会の報告(部分抜粋)
 - 管理運営に関する検討会の運営を継続しつつ市民参加型準備委員会を構築すること。
 - 保全プログラム(活動プログラム)と連携させてアダプティブ・マネジメントの考え方を導入すること。
 - 自然環境の保全を前提として誰もが気軽に自然ふれあい、森と新しい関わり方を考えるきっかけとなる公園づくりを行うこと。
 - 自然にオープンなふるまえる態度を利便「オーバーユース」を制限し、適正な利用の仕組みを検討すること。
 - 活動プログラムの実施に応じて「市民が対応できる部分」と「公的運営を行う部分」を十分調整すること。
- 14年02月 (仮称)自然ふれあいの森実施設計に着手
- 14年03月 管理運営準備委員会を設置(市民委員30名)
- 15年04月 総まとめイベントシンポジウム「さとやまと“友達”になろう」開催
- 15年05月 市民委員42名で新たに準備委員会を再発足
-
- 15年08月 「森の館」建設のために基礎づくりに着手予定
- 16年08月 「森の館」「森の小屋(くわすき)」「木道」に着手予定
- 17年08月 「森の小屋(くわすき)」に着手予定
- 18年03月 開園予定

シンポジウム 「さとやまと“友達”になろう!」

平成14年3月から行われてきた、「(仮称)自然ふれあいの森管理運営準備委員会」が、1年の集大成として、去る平成14年4月19日(土)、泉ヶ丘図書館ホールにてイベントシンポジウム「さとやまと“友達”になろう!」を開催しました。会場では、今までの活動記録のパネルやクラフト展示のほか、手作りの募金箱なども登場し、参加者した約100名の人でにぎわいました。このシンポジウムは、里山の再生に向けていっしょに知恵をしばり、「里山」の新たな魅力を見つけていこう、そんな願いを込めて委員会のメンバーが企画し、メンバー全員で準備から後かたづけまでを自分たちの手で行いました。

第1部では、大阪府立大学教授、石井実先生をお招きし、「生き物から見た大阪の自然」についての興味深いをお話いただき、第2部のパネルディスカッションでは、兵庫県立人と自然の博物館の藤本真里さん、八日市市花と緑の推進室の丸橋裕一さんをパネリストとしてお迎えし、自然ふれあいの森の事例報告をしながら、各氏が携わる自然環境活動の事例についてお話をいただきました。また、会場からからも積極的な質問が飛び交い、活気あふれるシンポジウムとなりました。

最後には、出席者とのふれあいの場を設け、終始なごやかなムードでイベントは、終了しました。

第1部 基調講演「生き物から見た大阪の自然」



まず、大阪の野生生物に起こっている変化について大阪版レッドデータブックに掲載されている動植物を事例として取り上げながら、生息状況や阻害している要因など解説していただきました。次に狭義の里山は、薪炭林、農用林の範囲をさし、広義では、これらに稲作水系、農地、採草地・茅場、屋敷林などを加えたものをさしており、広義の里山を守ることが大事であるというお話でした。

最後に、里山の自然を守る意味として、①薪、炭、堆肥、木材、食物などさまざまな資源を供給する。②身近な自然や憩いの場、教育の場として精神的・文化的な価値がある。③不完全な都市の生態機能を補完する生態系サービスを提供している。また、野生生物の避難場所にもなっているというまとめをしていただきました。

石井実先生

大阪府立大学副学長。大阪府立大学大学院農学生命科学研究科教授。1951年横浜市生まれ。東京教育大学理学部卒業後、京都大学大学院理学研究科修士。現職に至る。理学博士。チョウ類を中心に「昆虫類の生活史戦略」「昆虫の保全生物学」を研究。日本昆虫学会会長、日本結核学会監事・自然保護委員会副委員長などを勤める。おもな著書は「里山の自然をまもる」(築地書館、共著)「ミティゲーション」(ソフトサイエンス社、分担)など多数。

第2部 パネルディスカッション

里山は、いわゆる大阪弁の“ええ加減”で取組むのがよさそうである。このことにより人や動植物の多様性が確保できる。また、地域・地元と連携できるような活動にしていくこと、ゆっくりとつくり続けるための担い手として世代の多様性をどう確保していけば良いのか、など、今後の課題としてまとめられました。

自然ふれあいの森 (大阪府堺市)

堺市の南部丘陵地域において、森と人との新しい関わりによって四季折々の里山の風景を育てていく活動拠点、「(仮称)自然ふれあいの森」。ここでは、市民レクリエーションや市民活動を支援する様々な森の活動プログラムによってあらゆる世代が交流し自然とふれあうことのできる新しい仕組みを学習し体験できます。その活動が里山景観の維持へとつながり、新しい森の文化が創出されることをめざしています。



「堺自然ふれあいの森」委員会

「(仮称)自然ふれあいの森」において市民参画による管理運営を目指すために、市民主導型のワークショップにより森とのふれあいのためのイベントを実験的に開催していきます。また、当準備委員会は、自然ふれあいの森に関する情報交換の場、合意を得る場として位置づけています。

河辺いきものの森 (滋賀県八日市市)

自然環境を人々とともに守り育て、後世に残していくために河辺林を「河辺いきものの森」と称し、人々が自然にふれ親しむ場、環境学習や体験学習の場などとして活用していくなかで、“人と自然、人と人をつなげる森”づくりをめざしています。

河辺いきものの森・ネイチャーセンター
〒527-0003 滋賀県八日市市津部北町531
TEL.0748-20-5211



丸橋裕一さん

八日市市生活環境部花と緑の推進室。大阪市の造園コンサルタントに勤務する傍ら、八日市市で行われていた里山保全活動「遊林会」に参加。すっかりはまってしまい、2000年に八日市市役所に転職。花と緑の推進室職員として遊林会のコーディネートや森の利活用に携わる。

県立有馬富士公園 (兵庫県三田市)

豊かな自然を活かし、「自然体養型の文化公園」を基本テーマとした広域都市公園。全体計画416haのうち、出合いのゾーン70haがオープンし、150名収容のホールを備えたパークセンターや、生態園、樹田などの野外施設が整備されています。

有馬富士公園パークセンター
〒669-1313 兵庫県三田市福島1091-2
TEL.0795-62-3040



藤本真里さん

姫路工業大学自然・環境科学研究科環境計画研究部助手。兵庫県立人と自然の博物館環境計画研究部研究員兼任。1961年西宮市生まれ。県立有馬富士公園運営支援等、さまざまな形で博物館としてまちづくり支援活動を行っている。三田市都市計画審議委員会などを勤めている。

平成14年度の管理運営準備委員会で合意できた主な内容 (平成15年5月31日の資料)

1) 計画編

i) 自然ふれあいの森の目標

自然ふれあいの森周辺の環境との連続性をふまえて、自然環境の保護、活用、復元を図っていく“里山の保全”を目標とする。その関わり方として、「遊び」「農」「食」「散策」などがあり、また、その背景には、「里山文化の伝承」があります。



ii) ゾーニング

平成14年度委員会のゾーニングの検討結果は次の様になりました。

- 里山復元ゾーン: 里山の入口にふさわしい自然を復元するゾーン
 - 復元については極力郷土種に配慮するゾーン。
- 里山活用ゾーン: 多様な活動を通じて自然の機能を回復・維持・増進するゾーン
 - 自然の回復、維持、増進のために多様な活動方式や利用密度を検討していく。
 - 森の館、うさぎフォリー、くわすきフォリー等の建築物及び周辺整備は平成17年度を目処に整備を行なう。また、のこぎりフォリーから奥の整備については、活動状況や生態的な事項を踏まえて検討を行なう。
 - 畑、水田等の活動は、旧農耕地を中心に検討する。
- 里山保護ゾーン: 自然の回復、維持、増進を優先させるゾーン
 - ※管理活動は、保全プログラムと連動させて、アダプティブマネージメント(順応的管理)の考え方を導入します。

2) 会議開催編

i) 室内会議について

A. 組織体制

【平成14年度の組織体制】

- 平成14年度の管理運営準備委員会は公募による市民委員を、学識経験者や専門家及び行政がサポートし、会を設立・運営しました。



平成14年度の管理運営準備委員会体制図

- 目標とする里山律や会の活動方針を検討するため、ワークショップ等を重ねる内に、徐々に特色のある活動を試みる「班」が成立し、年度後半には、イベント等を企画する「企画部会」が組織されました。
- 「企画部会」では、月に1回行われる全体での委員会とは別に会合を持つようになり、部会での検討を経て委員会の場に立案を行ない、全体議論を重ねイベント等の実現に至りました。

【平成15年度以降の組織体制】

- 平成15年度以降の活動については、以下に示す内容で概ね合意しました。
- 当面は、「調査活動」「管理作業」「広報活動」「将来に向けての組織づくり」等を継続して行ないながら、全体会議で、管理運営のルールづくりを検討します。
- 徐々に、市民委員を中心に構成する各種部会が、自主的に活動し、様々な企画を全体会議に提案し、皆で検討・合意をしながら実施するシステムとします。
- 全体会議は、学識経験者・専門家・行政・市民・各種部会の代表者等で構成し、各種部会からのお提案を自然ふれあいの森の趣旨と照らし合わせ、皆で合意する「プラットフォーム」的機能を保持組織として位置付けます。また、各種部会間の連携を図る役割を持たせます。



平成15年度以降の管理運営準備委員会体制図

(趣旨)

「堺自然ふれあいの森」委員会活動における約束ごとを決めましたので、必ず守りましょう。

「堺自然ふれあいの森」計画地は、堺市内に僅かに残されている放置された山林や谷川、耕地を含む広さ約17ヘクタールの貴重な里山です。まずこの認識を持って下さい。

「堺自然ふれあいの森」委員会は、市民参画型で、この貴重な土地の自然環境保全、堺市民の利用、管理運営などの検討と生きもの調査、整備作業などを行います。

(約束ごと)

1 基本ルール

- ① 決められたことは、必ず守りましょう。
- ② 活動には、自主的に参加しましょう。
- ③ お互いに協力して、目標達成に努めましょう。
- ④ 活動をとおして、自らの向上と仲間を作りましょう。
- ⑤ 活動時には安全面に充分気をつけて作業をしましょう。

2 ふれあいの森ルール

- ① 計画地への動植物の持ち込みは、止めましょう。
- ② 計画地での動植物の勝手な採取は、止めましょう。
- ③ 火気は指定場所で使用し、後始末はきちんと行いましょう。

堺自然ふれあいの森委員会 各部会の紹介と活動経緯

企画班

メンバー:12名

相川さん、小林さん、清水さん、徳田さん、福田(哲)さん、古川さん、松弘さん、森(利)さん、森(佐)さん、森下さん、横島さん、米道さん

企画班では、次のような3つの役割があり、それぞれに作業部会を設け、活動しています。

- ・企画:班の連携確保、イベント企画、講習会など
- ・運営:会則、会計、保険について
- ・広報:ニュースレターとホームページの作成



調査班

メンバー:16名

飯尾さん、伊藤さん、猪足さん、宇野さん、北井さん、衣笠さん、児島さん、酒井さん、茶園さん、塚原さん、都志さん、坂東さん、福田(肇)さん、藤野さん、三瀬さん、向さん

調査班では、(仮称)ふれあいの森の植生調査を中心とした調査活動を他の班と連携しながら行っています。今まで行った植生調査は、次の通りです。

- ・麦尾橋～あらかし広場に至る経路のコロード調査(12調査点)
- ・植生調査(3K～L、4K～L)と毎木調査(5H)の練習
- ・コナラの丘北側の湿地と第2豊田川沿いの調査
- ・法道寺川沿いの植生調査



開拓班

メンバー:11名

大谷さん、笠原さん、川村さん、日下さん、小出さん、杉原さん、中西さん、原田さん、藤田さん、堀田さん、吉田さん

開拓班では、(仮称)ふれあいの森の開拓および整備を行っています。

- ・入口の麦尾橋～あらかし広場に至る経路の確保
- ・5H-1のルートの上道の復元
- ・水田隣接地の3K～L、4K～L付近の整備
- ・露道湧水箇所の溜りを設置
- ・しらさぎ広場～法道寺川の経路と階段を整備
- ・あらかし広場奥の階段を修繕。
- ・経路の階段の仕上げ
- ・しらさぎ台の手入れ



◎平成15年9月27日現在 市民委員総数43名(所属不明者4名含む)

問い合わせ先

堺自然ふれあいの森委員会 事務局
堺市 公園整備課
TEL:072-228-8174 FAX:072-228-1336

ホームページアドレス

<http://sakaisatoyama.cool.ne.jp/>

アクセス方法



泉北高速鉄道
泉ヶ丘駅下車

南側2番のりば
鉢ヶ峯行き
公園墓地北口下車
(約20分)

